

令和8年度 一般選抜（前期日程）

共生社会創成学部 共生社会創成学科 聴覚障害コース

小論文

（60分）

問題冊子

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子は、表紙を除いて2ページあります。
3. 解答用紙は、1枚です。
4. 解答用紙の定められた欄に**氏名及び受験番号を、監督員の指示に従って記入してください。**
5. 解答は、解答用紙の定められたところに記入してください。
6. 試験中に問題冊子および解答用紙の印刷不鮮明・汚れ、ページの落丁・乱丁等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせてください。
7. 色付き紙1枚は下書き用紙です。下書き用紙に書かれたものは、採点の対象とはしません。
8. 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰ってください。

問題（小論文）

以下の調査結果は、全国の市区町村を対象に実施された「障害者と防災施策に関する全国自治体調査（2017）」の一部である。この調査は、災害時における障害者への情報伝達の実態と課題について尋ねたものである。

図1・図2を見て、以下の問いに答えなさい。

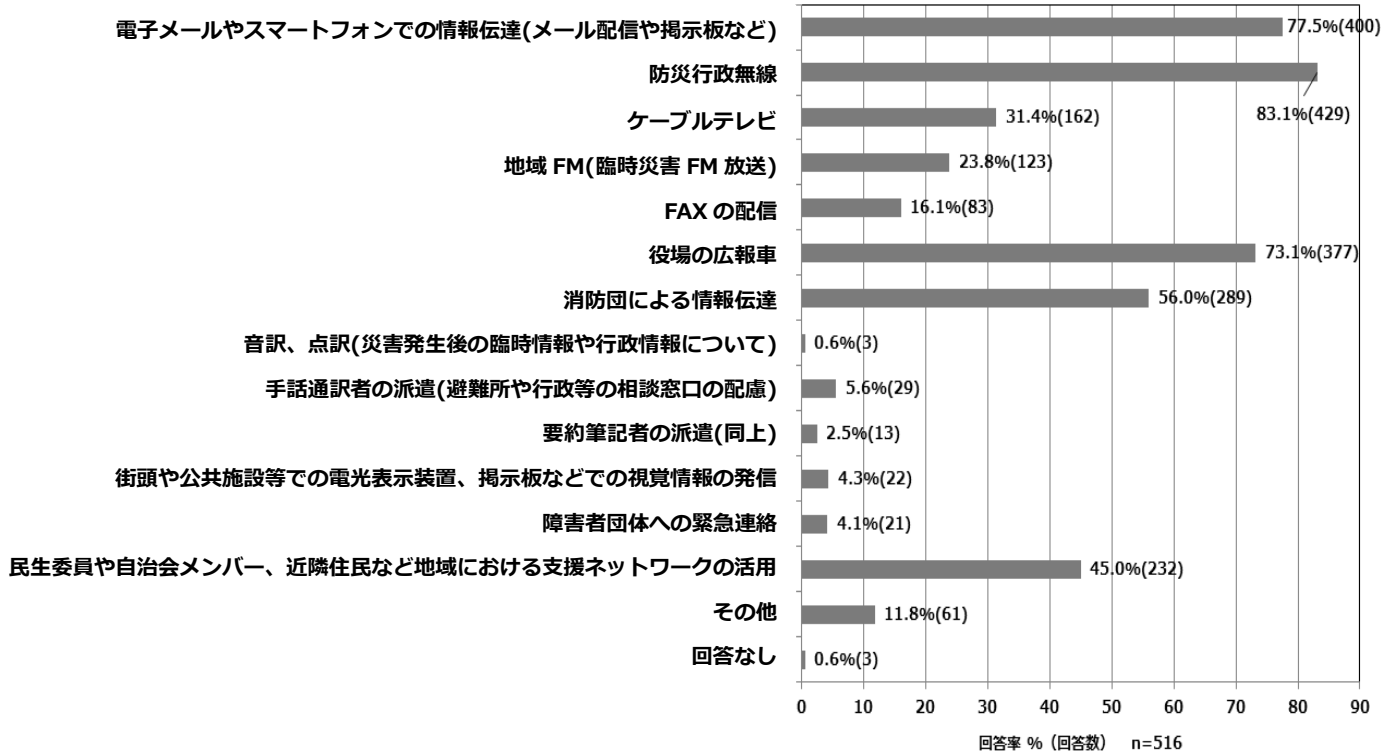


図1 災害時の障害者への情報伝達手段（複数回答）

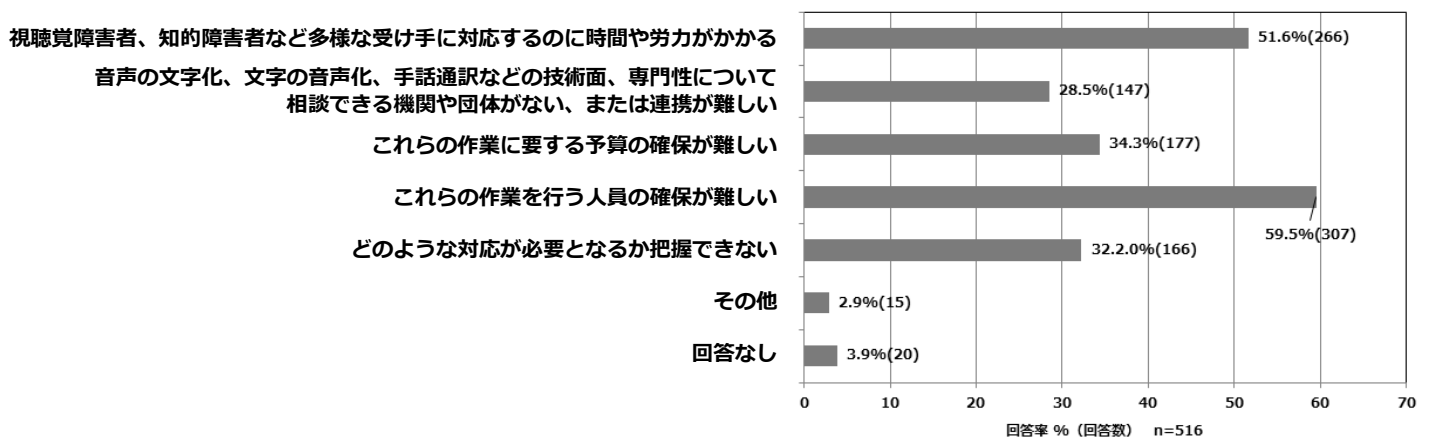


図2 災害時の障害者への情報伝達における課題（複数回答）

【補足】

本設問でいう「障害者」とは、身体障害、知的障害、精神障害、発達障害などにより、日常生活や社会生活に制約のある人を指す。

(1) 図 1 と図 2 から読み取れることとして、**正しいものをすべて選びなさい。**

- (ア) 災害時の障害者への情報伝達手段としては、「防災行政無線」や「電子メール・スマートフォン」など一般的な情報伝達手段の活用割合が高い。
- (イ) 手話通訳や要約筆記、音訳・点訳など、障害特性に応じた情報伝達手段の活用割合は他と比べて低い。
- (ウ) 障害者への情報伝達における課題として、「人員の確保」や「時間・労力」が多く挙げられている一方で、「予算の確保」の割合は全体の中で極めて低い。
- (エ) 障害者への情報伝達における課題として、技術や機器の不足よりも、人員確保や対応体制など運用面の課題が大きい。

(2) 図からわかる情報伝達の実態と課題を踏まえて、あなたが自治体の防災担当者であると仮定して、情報伝達のバリアを減らすためにどのような施策を進めるべきか、あなたの考えを 400 字以内で書きなさい。

【参考資料】

公益財団法人 日本障害者リハビリテーション協会（2017）『障害者と防災施策に関する全国自治体調査 報告書』

<https://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/resource/bf/201712/1712341.pdf>